

# 世界遺産登録に向けて

## 旧佐渡鉱山採鉱施設が重要文化財に 世界遺産登録へ大きな弾み

10月19日(金)に開催された文化審議会(宮田亮平会長)は、旧佐渡鉱山の「大立堅坑櫓」「道遊坑」「高任坑」「高任粗砕場」など、採鉱に関連する施設を重要文化財(建造物)に指定するよう、文部科学大臣に答申しました。

これらの施設群は、採鉱から選鉱、精鉱を経て製錬にいたる鉱山業務のうち採鉱に関連する建造物からなっており、堅坑櫓とあわせて戦前に新設された「大立堅坑捲揚機室」や、粗砕場で砕かれた鉱石を貯蔵する「高任貯鉱舎」や「ベルトコンベアヤード」などが含まれています。

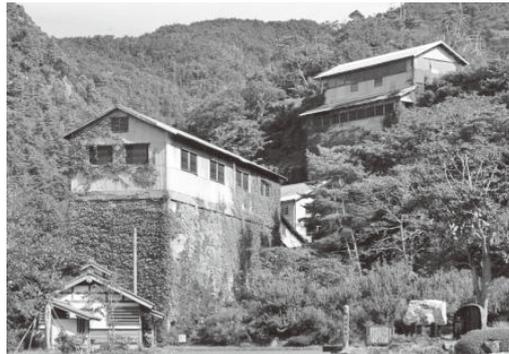
今回の答申で文化審議会は、「特筆すべきもの」として「昭和戦前期に整備拡充が図られた佐渡鉱山の施設のうち、採鉱にかかる建造物や機械類が一体的に残される。わが国最大級を誇った貴金属鉱山施設の代表的な遺構として、歴史的に高い価値を有する」としています。

世界遺産登録に向けて、構成資産の国文化財指定・選定が必須条件で

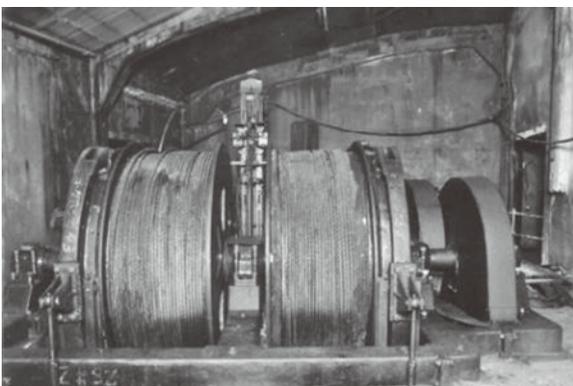
◆市役所世界遺産推進課(金井就業改善センター内) ☎63-5136



間ノ山上橋(あいのやまかみばし)。コンクリート前のタタキ工法が用いられている(明治後期建設)



昭和12年完成の高任粗砕場(右)と翌年完成した同貯鉱舎(左)



大立堅坑櫓と同時期に完成した大立堅坑捲揚機室



昭和15年に完成した大立堅坑櫓



明治32年に開坑した道遊坑

## 映画監督の井筒和幸さんを 「佐渡黄金大使」に任命!

10月23日(火)、佐渡金山で任命式が行われ、映画監督の井筒和幸さんに佐渡黄金大使(佐渡観光大使)に就任いただきました。



甲斐市長(左)と井筒和幸監督(右)

井筒監督が金塊をテーマにした映画「黄金を抱いて翔べ」を制作したことがきっかけとなり、日本を代表する金山である佐渡金山との「金つながり」ということで、2年間の任期で、世界遺産登録にむけて佐渡金山を全国にPRしていただきます。

